

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292200054		
法人名	社会福祉法人 さゆり会		
事業所名	グループホーム大浜	ユニット名	
所在地	長崎県五島市浜町142-1		
自己評価作成日	平成30年8月30日	評価結果市町村受理日	平成30年10月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	平成30年9月6日	評価確定日	平成30年10月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>外出支援や地域とのつながり・交流や出来る事を見つけ手伝って頂くことで生き生きと暮らして欲しい。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>“グループホーム大浜”の庭は広く、季節の花が咲いている。ホームの庭で菜の花などを眺めながら日向ぼっこをされたり、海沿いのドライブなども楽しまれている。日々の生活では、職員と一緒にできる事(役割)を増やすように努めてもらえ、元漁師の方がキビナをさばいて下さったり、中学生の方に団子作りを教える方もおられる。食事は全て手作りで、お刺身なども楽しまれている。「大根餅」や「椿餅」など、五島ならではのやつも手作りにしているが、昔は学校の遠足のおやつが“ゆで卵”だった事が話題になり、皆さんでおやつに“ゆで卵”を楽しむこともできた。ホームに入居後、次第に穏やかになれる方も多く、家族や地域の方々との交流も続けている。年々、職員個々の責任感ある仕事ぶりが見られており、今後も「気づき」を増やし、他の職員のサポート体制を強化していく予定である。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護の理念の唱和を継続して共有と実践に繋げていく	「一人一人をありのままに受け入れて、その方が持てる力を引き出し、みんなと一緒にゆっくり、楽しく、おだやかに生活して頂きます」という理念であり、職員が責任を持って仕事ができるように役割分担も定着してきている。入居者を「ありのままに受け入れる」ための情報交換を続けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	大浜小との交流、運動会 地域の八朔相撲 地域にある他のGHと合同レクリエーションを開催 地域の方々よりツツや梅などを頂き 行事食などの時に弁当を届けている。	地域の運動会や草刈り、敬老会、餅つき等と共に、小学校の学習発表会や入学式、卒業式に参加されている。近所の方から野菜や陶器などを頂いており、お礼にお弁当や紫蘇ジュース等をお届けしている。小学生との交流も継続し、レクや「30秒肩たたき」等をして下さったり、中学生と一緒に「かぼちゃ団子作り」等も楽しまれた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の時、ヒヤリハットや事故報告等報告し 地域の人々に知っていただくように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状況やヒヤリハット事例 職員の研修報告を行う 災害時のマニュアルの作成時に意見をいただき マニュアル作りに取り組んでいる	30年度から別の地域の民生委員も参加して下さっている。地域の犯罪情報や災害対策も検討し、「津波避難訓練時に地域の放送が聞こえにくい」等の課題も共有している。職員研修の報告や外部評価(自己評価)結果も報告し、「皆さん頑張っていますね」等のお言葉を頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは必要な時気軽に相談 話し合いができる関係ができています	30年1月に実地指導があり、指摘事項の改善も行われた。管理者が市の窓口を訪問し、運営推進会議の案内や議事録を届けており、運営推進会議で質問した内容も、その都度回答して下さっている。季節に応じて感染症情報をファックスして下さり、日々の対策に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は絶対にしない方針であるが研修を受けた後 更なる身体拘束を目指している	入居後、次第に穏やかになられる方が多く、入居者の意思決定を大切に声かけを行い、ご自分のペースで生活できる環境が作られている。喜怒哀楽の原因を分析し、主治医からのアドバイスを頂いたり、自宅での日課を把握し、ホームでも同じような生活が送れるように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はしない。ミーティング等で虐待防止の研修等に参加した職員より研修内容の発表意見交換し言葉の虐待に対する知識を深めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中にも利用されている方がいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は まず管理者が行い理解 納得していただけるよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には、毎日のケアを通じてご家族には面会時、意見・要望を伺うようになっている。ご家族が島外にいらっしゃる方には、請求書発送時 近況報告 必要な時はTELLして意見等を尋ねている。	毎月のお便りに写真を載せている。面会時や電話で日々の暮らしぶりや健康状態等を報告し、不安や要望の把握に努めている。敬老会やクリスマス忘年会等で家族と食事をする機会を作り、会話を楽しませている。島外に住む家族もおられ、電話などで情報交換を続けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングには 全員発言する機会を設けている 運営に関する事も自由に提案されてるので 実践できることは 即反映している	法人内の異動もあり、その都度、職員の結束を強めてこられた。事前に職員個々の異動の意向を把握すると共に、「職員の能力が発揮できる場所」等も管理者から施設長に報告している。職員主体でユニホームのデザインを考え、同法人内の障害者施設に作って頂く取り組みも行われた。	27年度から、職員個々が責任を持って仕事をすることを目標に、業務分担を行ってきた。今後も更に自ら気づいて率先して、行動ができるように意識すると共に、他の職員の業務のサポートもできるように努めていきたいと考えている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度が導入されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会は全職員平等に与えられている 全職員に役割を分担し 責任を持ってやりとげる事で職員を育てる取り組みをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の3GHの合同レクリエーションを年1回行っている。市内のGH連絡協議会が開催する「ケアプラン事例検討会」等に参加している。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員は、出来るだけ本人に寄り添い、じっくり話し合える時間を作り、困っている事 不安 要望を受け止め、安心して頂けるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者と職員は、家族とゆっくり話し合う機会を作り、困っている事・不安・要望等を受け止め、安心して頂けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所相談者は、在宅サービスを利用されている方々がほとんどである。入所を待機されている方々には、他サービス 施設の紹介をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の力を見極め 職員と一緒に出来る事をしていただく事で役割を持った生活を送っていただく。一つ一つの行為に感謝の言葉掛けをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会の折には近況報告をしたり 相談をする事で 受診時の付き添い 散髪を家族にさせていただくなど携わって頂き共に支える関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族への面会 自宅を見たい等要望に出来るだけ答えられるような支援を行っている。	出身地や生活歴を把握し、馴染みの場所をドライブしたり、自宅訪問をしている。地域行事の時や受診時に馴染みの方と再会されており、家族や地域の方も訪問して下さる。家族が入所している施設にお連れして、会話を楽しむ時間も作られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合った人たちのテーブルを同じにする事で会話が出来る 作業や食事を楽しむことが出来るように支援している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた方の初盆にはお供えをし家族にねぎらいの言葉を掛けている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者には職員全体で関わるが、特に担当者はより密接に関わり本人の思いや希望、意向の把握に努めている	入居者に寄り添い、日々の会話や行動から思いや意向を把握するように努めている。意思疎通が難しい方も表情やしぐさでお気持ちを察するようしており、適宜、家族の方々と情報交換を続けている。ご本人の思いを聴きとり、「台風だから自宅が心配」等の想いに寄り添っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にそれまでの生活歴を家族や本人に尋ねサービスの利用につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それまでの生活歴や 生活を行っていく中で有する力を引き出し 自立した生活を送れるように現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は 本人 家族の意見を聞きながら職員全員で意見を出し合い 作成担当者が中心になって介護計画を作成している	前回の外部評価以降、センター方式の記録を増やしてこられた。生活歴や趣味、信仰等も記録し、各活動の「できる事」「できない事」の情報と共に、ご本人の役割、足の筋力アップ(立位)等のリハビリ内容、ドライブや地域行事、「家族が散髪をする」などの家族の役割も盛り込まれている。	今後もアセスメント用紙に「各活動の要望」「介助が必要な理由」「今後の取り組みで“できそうなこと”」「行動障害の原因」などを記録すると共に、対応策もアセスメント用紙に残していく予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの内容や日々の様子、気づき等は個別記録綴りに記入し情報を共有、ケアの実践や介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスの機能(ホットパック 足裏のマッサージ・メドマ等)を希望者に使用していただき、個々のニーズに柔軟に対応している		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	老人会 小学生 友人 知人 ボランティア等の協力を得ながら豊かな暮らしを楽しむことができるように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を大切にしながら、かかりつけ医には定期的に受診協力医には往診して頂いている。受診時には必ず職員や家族が同行し、情報提供している。気軽に相談・協力が得られる関係が出来ている。	受診時はバイタルチェック表や排泄状況、体重、食事状況、微細な体調変化等の記録を主治医に見て頂き、他科受診も含めてアドバイスを頂いている。体調変化時は主治医や訪問看護師が来て下さり、職員の安心になっている。緊急時に搬送する病院の話し合いも行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職と介護職の連携は密に取れている。介護職員は利用者の異常時はすぐに訪問看護に連絡している。訪問看護と委託契約し、週1回訪問して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院すると面会に行く 主治医・担当ナースと常に情報交換を行い 早期退院に向けて働きかけをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応については、早い段階から本人・家族の意見を聞いている。重度化になった場合には、医師や看護師等にも状態の説明をして頂き終末期の支援を行った。	看取りケアの内部研修を行い、「いつも通りのケアを誠心誠意行う」事を共有している。「ここで最後まで・・」「ここがよかよ」と言われる方ばかりで、健康管理書(事前確認書)も頂いている。看取りの時期は管理者や家族も泊まり、看取りケア(エンゼルケア)も一緒に行われ、ご本人の着物を着て頂く事もできた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応について訓練や研修を行っている。全職員が経験もしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	定期的に避難訓練を実施している 地域の津波想定避難訓練が始めて行われ参加している 職員全員が災害時に冷静に対応できるように 訓練を継続していく予定である。	30年7月、台風直撃で停電した。ロウソクの灯りでの夕食となり、戦時中の話なども聞かれ、ライフインの大切さを気づかせて頂いた。同じ地域のホーム(3つ)とも協定書を取り交わし、お互いの訓練に参加している。消防団は3つのホームを1年に1か所の割合で訓練に参加しており、29年度は「大浜」に来て頂いた。食料等の備蓄も行い、賞味期限の管理もできている。昼夜想定の防災マニュアルも作り、日々の防災チェックも続けている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人にあつた言葉かけ 方言でも年長者に対する言葉使いをし馴れ合いにならないように努めている	職員は声かけも優しく、ご本人のペースに応じた支援を続けている。排泄時は転倒しないように注意し、排泄時の声の大きさに注意し、羞恥心の配慮をしている。個人情報漏洩に関する指導も行われている。	入浴や排泄時の支援を拒まれる方もおられる。今後もご本人の真意を理解する取り組みを継続し、ケア時の声かけの仕方やケア方法を振り返り、感染予防なども踏まえた最善策の検討を続けていく予定である。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ひとつひとつのケアの度に声かけ説明して本人の思いや希望を聞き、自分で決めて頂ける様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の性格 体調 望みなど利用者のペースを大切にしながら日々楽しく過ごしていただける支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二ヶ月に一度訪問美容師の方に来ていただき髪を切っていただいている。希望がある方は髪を染める等 おしゃれが出来るように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の出来る事を探し 料理の下ごしらえ 味見 片付け等を一緒にする事で食事を楽しんでいただく。	3食、ホームで手作りされており、季節の料理が作られている。季節の葉っぱ等も添えて彩りに配慮し、お刺身なども楽しまれている。入居者もジャガイモや生姜の皮むき等をして下さり、キジナをさばいて下さっている。おやつも手作りが多く、五島ならではの「大根餅」「椿餅」等も喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは系列の栄養士に3ヶ月毎にチェックをお願いしている。食事の摂取量 水分量は記録し不足のないようしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔清掃・うがいを実施。夜間は、義歯を洗浄液につけるようにしており、本人の能力に応じて義歯の取り外し・装着をして頂いている		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握しトイレに誘導することで失敗を減らし 立位が難しい方も2名介助でトイレ排泄して頂ける様に支援している	布の下着(パット)を使用する方もおられる。必要に応じて事前誘導を行い、ご本人が尿意を感じた時の動き等を把握し、トイレ誘導に繋げている。失禁時も原因分析や支援方法を検討し、ご自分のペースでトイレに行かれる事を大切にしながらも、感染予防対策も丁寧に検討されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状態を知り 水分量を増やしたり 起き掛けに冷たいものを摂っていただく等する事で自然排便につなげていくように取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否の方には職員が変わり声かけを行ったり時間をずらして声かけを行うことで入っていただいているが それでもだめな時には次の日に声かけを行っている	入浴の順番や湯温、湯船に浸かる時間などの希望に応じている。機械浴が設置され、1人ずつお湯を入れ替え、安心して入浴できている。入浴時は職員との会話を楽しまれ、歌も聞かれており、できる所は洗って頂いている。入浴頻度が少ない方も陰部洗浄や清拭などを適宜して頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間ではなく 生活習慣に合わせてテレビの視聴やラジオなどを聴くなどそれぞれ状況に合わせてして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に変更があったときには 職員が情報を共有して 体調等状態の変化を見逃さないようにしている 名前と薬剤の確認 確実に服用した事を見届け 症状の変化にも気をつけている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の好きな事 得意なことなどをして頂く事で役割を持って張り合いのある生活をして頂いている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自宅に戻りたい 家族に面会に行きたいなど希望があれば出来るだけ希望に添えるように支援しています。小学校発表会などでは 先生たちの力を借りてか階段の上り下りなどを手伝って頂いています	神社の前に駐車しやすい住吉神社に初詣に行かれている。荒川温泉での足湯、富江町の鯉のぼり見学、福江ダムにツツジ見学、崎山で桜の花見をしながら、お弁当を楽しまれたり、藤の花見や海浴いのドライブも楽しまれている。海を眺めながら「ミナ取り」等の思い出話になることもある。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方は2名 お金を所持している方は、希望があれば買い物等に出掛けお金を使えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様のご要望にあわせて電話はいつでもかけたり受けたり出来るように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や洗面所に花を飾ることで季節感を取り入れている。夏の暑さ対策のすだれに折り紙で季節感を表している	ホームの庭には菜の花等が咲いており、お花見を楽しまれている。リビングでは入居者同士の関係性に配慮した座席を工夫し、室温などの配慮も続けている。畳では洗濯物たたみをされたり、廊下の椅子に座り、日向ぼっこをされている。リビングの掃き出し窓は外との段差が大きく、施設長にベランダ等の設置をお願いしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの席など気の合った者同士を近くの席にする事で会話をしやすい環境を作っている。洗面所横等にソファを置くことで一人になりくつろげるスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅に使用していたタンス等を持って来ていただき 家族との思い出の写真や物を飾ることで自宅に居るような環境を作るように工夫している	自宅から植物やぬいぐるみ、時計、たんすなどを持ち込まれ、ご本人が作られた“ちぎり絵”、家族の写真、大好きな演歌歌手の写真なども飾られている。入室を拒まれる方もおられ、必ずご本人に了承を得るようにしている。「花が好き」と言う方もおられ、居室から見える所に花壇が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物全体がバリアフリーになっている。廊下トイレ 風呂場には手すりがついている。		